

血液ガス分析装置のサーバー導入による一括管理の有用性

◎河野 真吾¹⁾、富田 遙加¹⁾、中山 梓¹⁾、熊谷 理絵¹⁾、吉田 雅弥¹⁾、山崎 卓¹⁾
熊本赤十字病院¹⁾

【はじめに】血液ガス分析装置は、急性期医療に欠くことが出来ない代表的な臨床現場即時検査（point of care testing：POCT）の1つである。POCTの特徴は検査結果の即時報告ができ、診断・治療に反映させることができる迅速性にあるが、近年は精度の確保が問題となっている。今回我々は臨床検査情報システム（laboratory information system:LIS）及び血液ガス分析装置の更新・増設に併せて、サーバーを設置し、検査室外の血液ガス分析装置の管理を開始したので報告する。

【対象】LISはCLINILAN GL-3(A&T社)、血液ガス分析装置はGEM5000(ILジャパン社)を導入し、検査室：2台、救命救急センター：2台、血管造影室：1台、病棟：3台(ICU：1台、PICU：1台、GICU：1台)の合計8台の管理を開始した。また、サーバー(GEMweb Plus 500)を導入し、検査室で一括管理できるようにした。

【運用】検査技師が管理する以前は病棟の血液ガス分析装置がオフラインで運用されており、時系列のデータ管理が困難な状況にあった。しかしながら、LISと接続し、

オンラインの運用に切り替えたことで病棟スタッフの業務負担軽減に繋がった。またサーバー管理によって、検査技師が検査室内外の実機を確認することなく、機器の状態、試薬の残テスト数を把握できるようになった。精度管理については我々が得意とする分野であり、精度の確保も可能となった。

【課題】検査室が管理している血液ガス分析装置は8台であるが、まだ他部署で管理されている血液ガス分析装置（他メーカー）があり、それらはオフライン運用であるため今後の課題である。さらに他のPOCT機器も院内に存在しており、管理について検討する余地がある。

【まとめ】LIS及び血液ガス分析装置の更新を契機に検査室外の装置管理も開始した。検査技師が管理するようになったことでこれまで以上に精度の確保が可能となった。検査室の外で活躍できる技師の育成はタスクシフトにも繋がるため、臨床のニーズを見極めながら、推進していきたい。

連絡先：096-384-2111（内線 6372）